

つくばフォーラム2012

① 基調講演と特別講演



黒岩 正信
KUROIWA Masanobu

日本メックス(株)
(本誌編集企画小委員長)

基調講演は日本電信電話(株)の片山泰祥代表取締役副社長が「NTTグループの最近の取り組み」と題して幅広く説明されました(写真-1)。講演の中で印象に残ったポイントは下記のとおりでした。

①スマートフォンの出荷台数が2011年に50%を越え、



写真-1 日本電信電話(株) 片山泰祥代表取締役副社長

通信スピードも高速化している。

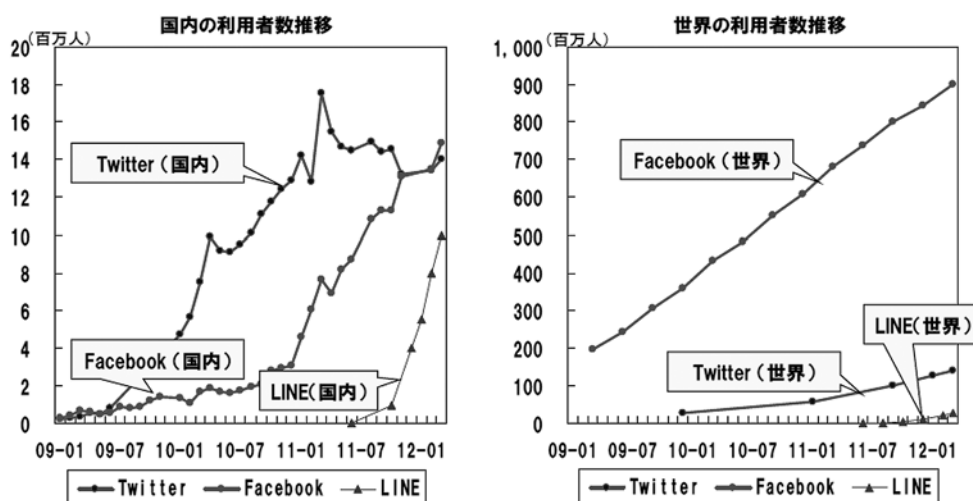
②ロンドン五輪では、ネットで動画(ライブストリーミング)を見たという人が60%に達し、長時間見ていることも分かった。スマートフォンや携帯も映像視聴対応可能なサービスエリアの拡大を図っていく。

③社会基盤としての安心・安全なクラウドサービスを提供するため、サービスプラットフォームとそのインフラとなるクラウドにNTTグループ各社の強みを生かして推進していく。

④グローバル事業の売上も2012年3月で100億USドルを1年前倒して達成し、2011年9月で4.8万人が海外の人材になっており、R&Dもグローバルな人材交流も含めて推進する。

⑤FacebookやTwitterなどのソーシャルメディア(SNS)の利用者も急拡大している(図-1参照:講演資料から)。

キャリアに依存しないコミュニケーションサービスが急速に普及



出典:平成24年度版情報通信白書第一部第3節「(2)放送とソーシャルメディアの融合・連携の進展」、NHN Japanホームページを元にNTTにて作成
Copyright(c) 2012 日本電信電話株式会社

図-1 ソーシャルメディア(SNS)の利用者が急拡大

特別講演は西日本電信電話(株)の村尾和俊代表取締役社長が「光サービスによる新しいライフスタイルの創造」と題して具体的なサービス事例を説明されました。(写真-2)アップルの創業者で昨年亡くなったスティーブ・ジョブズ氏の言動に感銘を受けて、社長就任の記者会見でも「ICTを活用して新しいライフスタイル、文化を創造したい。」と宣言されたという話から始まりました。深みのあるシンプルな機能の商品・サービスを提供すれば、世の中のユーザーが新たなAPを付加してくれるというのがジョブズの基本スタンスとのこと。

講演の中で印象に残ったポイントは下記のとおりでした。

- ①いろいろなサービスを展開するために、クラウドビジネスを実行する「クラウドビジネス部」など新たにアライアンス推進体制を作った。
- ②サービス事例の一つに「メガネ型デバイス」(図-2参照：特別講演から)を活用した施工現場をサポートするソリューションなど応用が広がりそうな事例を紹介された。NTTコレクションというNTT西日本のイベントでも同様のサービス事例の説明をしたところ、新たな応用の話が会場の交流の場に出てきたりして好評であった。
- ③従来行政がPC向けに配信していた観光動画・地域

動画を光BOX+でテレビの画面から提供できるサービスが10月から京都府で始まる。防災システムの一環としても活用していける。

- ④設備戦略の一つとして、昨年の3.11を踏まえて、南海トラフ地震等の大規模災害への対策として、防災3か年計画を策定するとともに、特設公衆電話の事前設置なども計画中である。
- ⑤「グリーンNTT西日本」の推進として、(1)電力使用量の削減(2)環境・省エネ事業の展開(3)生物多様性保全活動の推進(植樹活動を核に多彩な取組)などを行う。

(基調講演と特別講演の事務局発表参加者数：1,300人)



写真-2 西日本電信電話(株) 村尾和俊代表取締役社長



図-2 メガネ型デバイスの特徴

つくばフォーラム2012

② 展示会



武村 秀

TAKEMURA Hiizu

アイレック技建(株)
(本誌編集企画小委員)

《アクセスネットワークがつなぐ、明日という未来へ》をテーマに、「ライフラインとしてつながる技術を実現し、未来に向けて進化するアクセスネットワーク」をコンセプトとして基調講演、ワークショップ、技術交流イベント、展示等が行われました。

展示コーナーでは、コンセプトの下に「つなぐ」技術「つながり続ける」ための信頼性向上技術「未来への安心感と新たなサービスを支え、拡げていく技術」、これら3つの視点から開発技術が紹介されましたので、その中のいくつかの技術を紹介します。

■ PONスリープ技術による非常時通信電力消費の削減

災害等、停電時において通信を確保するために少ない発電量・バッテリー容量で動作する通信機器が求められており、連続待ち受け時間を長くするために非通信時のONUのほぼ全体の電力量を削減することにより、従来のスリープモードの約1/2の消費電力を実現する技術であります(写真-1)。



写真-1

■ 高速マルチホップ無線伝送システム

双方向マルチホップ無線伝送に適した高効率化技術の開発により、高速なマルチホップ無線伝送を実現す

る技術であり、光ファイバーの敷設が困難な地域・場所におけるブロードバンド回線や大規模災害時における臨時回線を無線通信により簡易に提供できるようです。120m区間において、デモンストレーションを実施して貰いました(写真-2)。



写真-2

■ 将来の超大容量伝送実現に向けた次世代光ファイバ技術

既存光ファイバにおける伝送容量限界の打破に向けた、マルチコアファイバや数モードファイバを用いた



写真-3

モード・空間多重技術であります。商用実用化されている光ファイバの伝送性能を1000倍以上に飛躍的に向上させた技術で世界最高となる技術のようです。10年で10倍に増加する通信トラフィックに対応する光通信システムとして、期待されている技術であります(写真-3)。

■ PITライニングによる既設管路の耐震性向上

道路を掘削することなくケーブルを収容した不良管路を補修する「PITライニング工法」。PITライニングは管路の延命化に加え、耐震機能を向上させる効果も有しており、収容されたケーブルを大規模地震から守り、つなぎ・つながり続ける技術であります。(写真-4)



写真-4

■ ハイグレードボックス (GLB)

(株)サンレックのブースでは、初めて見る高密度ポリエチレン (HDPE) を用いたハンドホールが展示されていました。このハンドホールは米国Channell社製で、従来のコンクリート製のものに比べて、軽量で低コストになるため、メガソーラー、風力発電、宅地内の電力ますなど各種ハンドホールに適用すべく平成25年度からの展開に向けて検討中ということでした(写真-5)。



写真-5

NTT技術歴史館なるブースがあり、「銀座並木通りで最後の電話柱」「デルビル磁石式壁掛電話機」「4号自動卓上電話機」など昔し懐かしい展示物もありました。電信柱(木柱)を見て、夕暮れ時に啼く蝉の光景が思わず浮かんできました(写真-6)。



写真-6

普段、かかわりを持つことが少ない通信技術に関する技術展示会で、難しい内容ではありましたが、最先端の通信技術を見ることができ大変有意義な展示会でありました。

(展示会の事務局発表参加者数：10,400人)